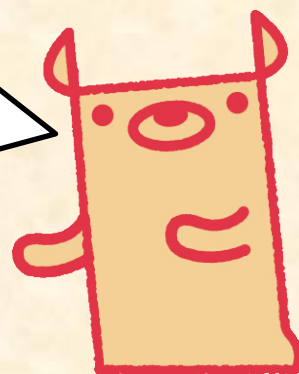


平成 27 年度 埋蔵文化財企画展

# 発掘された謎

- 発掘調査のようす -

**富奥防災コミュニテセンター  
を建てるときに行われた発掘  
調査の様子を写したものだよ**





この発掘調査は平成 25 年に行われました。



まずは更地の状態からスタートです。この段階で、その部分を掘り下げていくのかという情報を示しておく必要があります。



重機によって、遺構面まで掘り下げます。



この段階で、周囲の地面の色と違う部分が見出せます。こういったものが遺構と呼ばれるものです。



重機による掘削が終了した段階の写真です。赤い杭は、測量会社によって打たれた、グリッドを示す杭です。杭同士の距離や標高といった調査に必要なデータを与えてくれます。



この後人力によって遺構検出を行います。鋤簾を使って地面を削っていきます。



鋤簾がけが終わった後、土の色が周囲と違う部分（=遺構）を石灰で示します。

この段階で簡易的な図面を書き、後の調査に使用します。



遺構を掘っていきますが、断面を確認するために半分ずつ掘っていきます。

この作業を半裁と呼んでいます。



建物跡などに関しては、写真のような十字の帯を残して掘ることで、縦横の断面図を残します。



断面図の記録をとり終わると、残っていた帯部分を掘り切ります。



遺物が確認されても、すぐに取り上げることはしません。遺構のどの位置で出土したかの記録をとり、取り上げた後、どこから出土したか分かるように袋に入れておきます。



ほぼ完形の須恵器が出土しました。

この企画展において展示されているので実際に見てみましょう。



こうした土層断面を確認することで、発掘調査地がどういった土層を持っているのかの確認を行います。



雨が降れば泥だらけでの作業となります。掘った遺構には水が溜まりますので、雨上がり最初の発掘作業は水汲みとなります。



こうした作業を繰り返し、全ての遺構を掘削し終えた状態です。この後、最後の記録撮影を行い、報告書作成業務に備えます。



発掘作業終了後、ラジコンヘリを使用した航空写真測量を行います。

狭い現場などでは人力での手実測で詳細な図面を作成することもあります。



現在、富奥防災コミュニティセンターが建つこの場所ですが、こうした過去の人の営みの上に建設されているということは覚えておきたいです。

## 発掘調査後の作業について

現地での発掘調査が終わった後は、その調査によって得られた情報をまとめた発掘調査報告書を刊行します。

この発掘調査報告書は、一般の人向けというより、発掘調査を行う他自治体や大学などの研究機関向けという側面が強く、発掘調査や考古学の知識がない人が読んでもなかなかピンとくる内容ではありません。

では、発掘調査によって得られた成果を一般の人に知ってもらう機会はいつ・どこなのかというと、まさにこの場所で今現在行われている企画展です。

発掘調査や色々な研究の成果を、専門的な知識のない人にも分かるような形で届けるための企画展や展示会は、この野々市市だけでなく石川県内各地で行われています。

## 発掘調査データ

遺跡名 : 粟田遺跡 (第 18 次調査)

調査原因 : 富奥防災コミュニティセンター建設

調査面積 : 919 m<sup>2</sup>

遺跡の種類 : 集落跡

遺跡の時期 : 古代

主な遺構 : 竪穴建物

主な遺物 : 土師器、須恵器、打製石斧

## 概要

今回の調査では古代の竪穴建物 4 棟が確認されました。このうち 3 棟は調査区外へと延びていくため規模は不明です。全容の確認できた建物に関しては、南東隅からカマドの跡が発見されました。本調査区の地形は、東から西にかけて低く傾斜していて、西端は南北に走る自然の谷地形となっていて、古代において微高地に営まれた集落の一部であったと考えられます。

